

令和4年度全国学力学習状況調査結果概要

今年度も全国学力学習状況調査が実施されました。この結果は児童の学力の全てを把握するものではなく学力の特定の一部を示しているものですが、これを分析して成果と課題を明確にし、今後の学習活動や生活の改善に活かしていくことが重要であると考えています。以下に本校の調査結果の概要を示します。



【国語・算数・理科】

- ・ 3教科すべてにおいて本校の平均正答率は全国や奈良県の平均よりも低くなっています。
- ・ アンケートでは国語や算数、理科の学習が「好き」「大切」「授業の内容はよくわかる」などの質問に多くの児童が肯定的な回答をしていましたが、解答を文章で書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童や、深く考えを巡らせたり分からないときにもあきらめずにいろいろな方法を考えたりした児童の割合は、全国や県の平均よりもとても少なくなっています。これらのことから、各学級では児童の力に合わせた分かりやすい授業に努めており、児童も楽しく学習できていると思われませんが、児童の学力や意欲に結びついていないところが課題です。今後も基礎基本の学習を大切にしながら児童の実態に合わせた分かりやすい授業を工夫していく必要があります。また、特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」については国語科で学習したことを他教科の学習や学校の教育活動全体の中で使う機会が持てるように、年間指導計画に意図的・計画的に位置づけることが必要であると考えます。
- ・ 本校ではこれまでも ICT 機器を活用し、楽しい授業・分かる授業の工夫に取り組んできており、デジタル教科書の活用も進めています。今後も引き続き取組を進めるとともに作業的・体験的な活動を工夫しながら理解を深める授業を展開していきます。また授業の中で基本的な知識や技能を身につけるだけでなく、身につけた力を生活や様々な学習の場面で活用できるようにすることによって、児童にとって学習が意味のあるものとなるようにしていきたいと思えます。

【学習状況(学習意欲・方法・環境・生活等)】

- ・ 家庭学習の時間は平日・休日ともに多くの児童が1時間以下で、「全くしない」と回答した児童の割合が奈良県や全国の平均と比較して高くなっています。低学年のうちから、保護者と連携して家庭学習の習慣づけを行い、自主的に学習をする態度を養うことが必要であると考えます。
- ・ 約半数の児童が平日に3時間以上のゲーム、2時間以上の SNS や動画視聴をしていると答えており、ゲームや SNS・動画視聴にかなりの時間を使っています。学校でネットモラルについての学習を進めるとともに、家庭でのルール作りについて保護者への啓発が必要です。
- ・ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の問いに対して97%の児童が肯定的な回答をしました。引き続き「いじめ防止基本方針」に沿って、いじめを許さない心の育成に努めます。
- ・ 「学校に行くのが楽しい」に否定的な回答をした児童が約22%でした。コロナ禍において学校生活にいろいろな制限があることも影響していると考えられますが、これらの児童の実態把握や理由の分析をし、楽しい学校生活が送れるよう支援をしていくことが必要であると考えます。
- ・ 「地域の大人に授業や放課後に勉強やスポーツを教えてもらったり一緒に遊んでもらったりする」の問いに約50%が「全くない」と回答しています。また「今住んでいる地域の行事に参加している」児童も50%より少なくなっています。地域学校協働活動が始まり地域の方々に学校の様々な活動に参加していただくことが増えてきていますが、子どもたちにはまだ十分これらの活動が認識されていないようです。今後も引き続き活動を進めていくとともに、来年度からは放課後子ども教室も実施し、地域と一体となって児童の育成を図りたいと思えます。